

ごあいさつ



理事長
熊尾 憲昭

皆様には、平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

本年度も当金庫をより一層ご理解いただくために「そらちしんきんレポート2020」を作成いたしました。経営理念、経営方針、業績、財務内容をはじめ地域の皆様とのふれあいなど、現況をご案内させていただいておりますので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

さて、令和元年度の国内経済は、記録的な豪雨や大型台風などの自然災害が相次いだほか、消費税増税や米中貿易摩擦が激化するなか、年明けに発生した新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、東京オリンピック・パラリンピックが1年延期になるなど経済環境は急激に停滞する厳しい状況で終わりました。

また、管内景気におきましても、北海道胆振東部地震後の災害復旧工事等の公共工事や設備投資が増加し、個人消費や雇用者所得の回復、観光業等も堅調に推移するなど緩やかに景気は拡大していましたが、北海道内で新型コロナウイルスの感染拡大が深刻な状況となり、2月末に「緊急事態宣言」が出されたことから、外出を自粛する動きや、各種イベントの中止・延期により観光業や飲食業などが急速に悪化し、今後の経済動向に大きな不安を残しております。

このような地域経済状況を踏まえ、協同組織金融機関として、地域へのより円滑な資金の供給やお客様への経営相談、地域経済の活性化に向けた取組みを積極的に推進するとともに、財務体質改善のため、コスト削減や事務の効率化に努めました。

令和元年度の決算概要につきまして、収益面では、低金利環境の中で資金運用収益が増加したことから、経常収益は39億32百万円と前年比0.6%の増加となりました。一方、費用面では国債等債券売却損及び株式等売却損の増加により、経常費用は33億59百万円と前年比4.6%の増加となりました。この結果、経常利益は前年比1億22百万円減少の5億73百万円を計上、当期純利益は、前年比70百万円減少の4億40百万円の計上となりました。財務の健全性を示す指標である自己資本比率は、前年比0.10ポイント低下の17.15%となりましたが、貸出金残高の伸びに伴うリスクアセットの増加によるものであり、依然として国内基準4%を大きく上回っております。また、不良債権比率は、前年比0.15ポイント低下の1.75%となり、依然として低い水準にあり、資産の健全性は十分に維持されております。

世界経済の悪化懸念から各国による一段の金融緩和が相次いでおり、貸出金や有価証券等の資金運用利回りの更なる低下により金融機関の基礎的収益力は一段と厳しい状況にあります。また、新型コロナウイルスの感染対策等の長期化が予想されるなか、地域金融機関は、地域の感染拡大防止に最大限努めると同時に、事業者や個人の資金繰り支援を始め、地域の経済活動をサポートするための金融機能の維持や、お客様志向の観点から必要な金融支援業務の継続強化が求められております。

一方、経営基盤となる南空知地域の人口減や経済規模の縮小も憂慮すべきものとなっていることから、今年度は新たな取組みとして、営業店をサポートする個人営業支援チームの新設による営業推進及び顧客情報の活用による法人向けのソリューションの提案等を行い、個人・法人先の複合取引による顧客のメイン化を図ってまいります。また、SDGsを活用した社会への貢献についての検討や、人材育成についても、信用金庫人としての理念教育を新たに導入する等、第一次中期経営計画の最終年度としてしっかりと締めくくり、長期ビジョンの実現を目指してまいりますので、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。